



クリストフ・ソーターの「ビャーンヴェニコ・アン・スイス」

皆さんこんにちは。

今回は、シンガポールについての話を伝えたいと思います。私は今年の8月に中学生海外体験事業で国際交流員としてシンガポールに行きました。この事業は海外へ旅行し、異文化体験を通して国際感覚を身につけることを目的に行われました。

私にとっては、シンガポールほど興味深い都会に行けるのは嬉しかったし、仕事に対しても凄くいいチャレンジでした。実は、通訳をするのは初めてで、とても良い経験になりました。シンガポールは快適な環境で、立派な都市だと思いますので、是非また行きたいです。シンガポールは小さくても、文化の豊かな国です。植民地化と中国人の移住がシンガポールに文化の混合を生じさせました。その結果、たくさんの言葉が使われています。

シンガポールの国語ってなに？

今回交流を行ったメイフラワー中学校の中学生達がみんな母語と英語も話せることにはこの事業でシンガポールに行った鏡野町の中学生は本当に驚いたと思います。シンガポールで使われている言葉はたくさんあります。英語（公用語）、中国語、マレー語、インド語、インドネシア語などがありますが、小学校から母語と英語を勉強するので、コミュニケーションをとるのは問題ではありません。

私の生まれた国はスイスですが、スイスもまた小さい国です。面積は42,284 km²で、人口は736万人ぐらいです。スイスでも文化の混合があり、ヨーロッパの真ん中の位置の上でスイス国民はフランス、ドイツ、オーストリア、イタリアなどの文化に影響されました。スイスでは公用語が1つだけではなくて、4つあります。ドイツ語、フランス語、イタリア語とロマンシュ語があり、北と東の方はドイツ語、西の方はフランス語、南のほうはイタリア語が使われています。ロマンシュ語は東の山の民族に使われています。スイス連邦の中には州（カントン）が23あり、各州が独立しているので、学校の教育と言葉も地方によって違います。

シンガポールでは色々な文化と言葉があっても、学校で英語を習っているので、英語でコミュニケーションが出来ます。スイスでも多くの言葉があり、私もスイスでフランス語を使わない地方に行く時はコミュニケーションが出来ないことがよくあります。スイスではドイツ語は小学校からどこでも教えているのですが、難しくて学生はドイツ語をあまり勉強しなくなり、フランス語の州とイタリア語の州でドイツ語が話せない人が多いです。私もそうだったので、今はドイツ語が少ししか分かりません。今では、もう少し勉強しておけば良かったと思っています。シンガポールの人たちは英語でコミュニケーションが出来るし、自分の文化の特性を伝えられるので素晴らしいと思います。

そのような事がスイスにあったら良いと思うけど、州により教育制度が違うので今は無理だと思います。しかし、言葉の違い、多様な文化があってもスイス人であるという誇りを国民は強く持っています。

シンガポールの体験を通じて、現在の世界では一生懸命外国語を勉強することはとても大切だと鏡野町の中学生がよく分かったのではないかと思います。日本では日本語しか使われていませんが、国際化の時代では外国との交流が段々増えていくかもしれませんので、英語が話せるようになることは必要だと思います。

今月のフランス語の言葉は「アンシャンテ」です。「初めまして」の意味なので、ぜひ覚えて下さい。

それでは、次号でまたお会いしましょう。

クリストフの一日(半日)お手伝い



鏡野町の国際交流員になって、もう三ヶ月になりました。これから皆さんと交流するため、私を皆さんの職場や家庭に一日または、半日招いて下さいませんか。皆さんの仕事の内容や暮らしを実感させて頂きたいと思っていますので、私に鏡野町の仕事や生活を体験させて下さい。



この機会に、一緒に簡単な外国話やスイスの事などを話して楽しい時間を過ごしましょう。

できれば2週間前までに企画課のクリストフに連絡して下さい

電話 (0868) 54-2982

よろしくお願いします。

